東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006年6月16日

崇拝と道徳のつながり

親愛なるムスリムの皆様。私たちが信じる尊いものを、私たちの振舞いに反映させる為には、教えをよく理解すること、よい形で説明されることが必要となります。当然のことながら、イスラームの教えとは、礼拝やアッラーへのドゥアーのみによって成り立つものではありません。しかし、それらについて注意を払うなら、私たちの振舞い方に大きな影響を与えるものとなるでしょう。

例えば、クルアーンでは、礼拝とモラルの間のつながりについて言及されています。もし、注意を払わないでいるなら、礼拝とモラルの間に何もつながりがないように思えるかもしれません。しかしクルアーンが私たちに説いているところによると、礼拝は人間を全ての悪事から遠ざけるものです。「本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける。」（蜘蛛章第 45 節）と述べられているのです。日に 5 回、崇高なる創造主の御前にいて、意志を新たにし、アッラーとの結びつきを確かなものとする人は、礼拝以外の場においても、その意識とアッラーとの結びつきを継続させます。そして人々に対しても、その責任のもと、振舞います。この観点から、礼拝とモラルのある振舞いには、悪事から遠ざかり、善を地上に浸透させることと、深いつながりがあるのです。

注意深く見ていくと、断食は、非常に個人的なイバーダです。しかし断食を行なうことは、単におなかをすかしていることではありません。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は、ハディースで、「人々に対して悪事を施したり、悪事から遠ざかろうとしなかったり、善を施そうと努めなかったりする人々の断食は、ただの空腹である。」とおっしゃられました。そもそも真の断食とは、崇高なる創造主としもべとの結びつきを行為に反映させることであり、断食のうちに過ぎる時間は、すばらしさの時間、善の時間、悪事から遠ざかり、自らを見つめなおす時間であることによって、その価値を持つのです。

「ザカート」とは、清められる、という意味を持ちます。けがれから清められ、重荷から解き放たれ、他人や来世への負債から清められる、という意味です。ザカートを支払うことによって、私たちは私たちが与えられた権利の分だけの財産によってこの世の生を送ることができるようになります。

巡礼というイバーダに関しても、聖預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の言葉を引用するなら、生まれた日のように清らかな状態を、その人に与えるものです。どの観点から見ても、イスラームの教えは、私たちによい徳をもつこと、品性ある振舞いをすることを勧めているのです。

ムスリムの皆様。イスラームの教えは、個人的な生き方を改善したり、天国を私たちに与えたりするものではありません。私たちをお互いに結びつけ、お互いをより愛し合うことへの道を開き、より人間らしい生き方ができるよう、私たちに可能性を与える光なのです。さらに、個人に対する慈悲に留まらず、社会全体に対する慈悲であるのです。クルアーンが、教えとクルアーンは慈悲として下された、と述べているのは、この点を指しているのです。